

ポルシェ 996 Refresh 計画

6

マスター バックがサビだらけ!!

下初期モデル[98年式] 過走行 ポルシェ996

996リフレッシュ計画も完成まであとわずかとなってまいりました。

今月は先月に引き続き、ブレーキ関係のリフレッシュ後編。

サンプル車はお馴染み98年式の超ド初期モデル、走行たぶん10万kmオーバー車。

果たしてこのポルシェ996、新車の味までハマッチ?

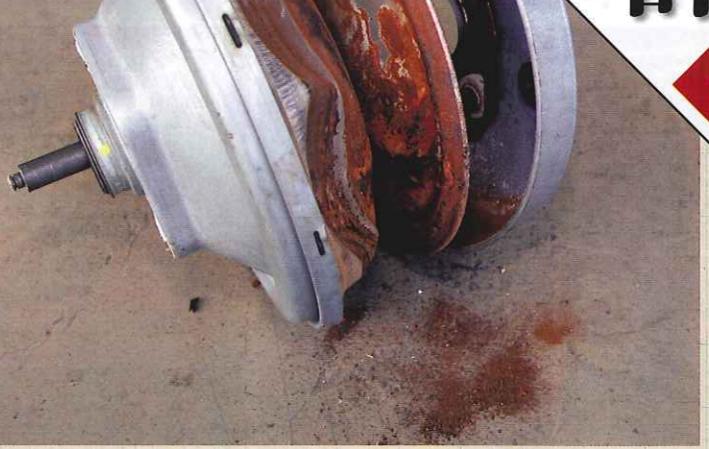
文・半谷篤一 撮影・森口信之
取材協力・(株)スピードジャパン

TEL:03-3555-8865 http://www.speedjapan.co.jp

・株ニュースモーター

TEL:043-208-7900 http://www.news-motor.com/

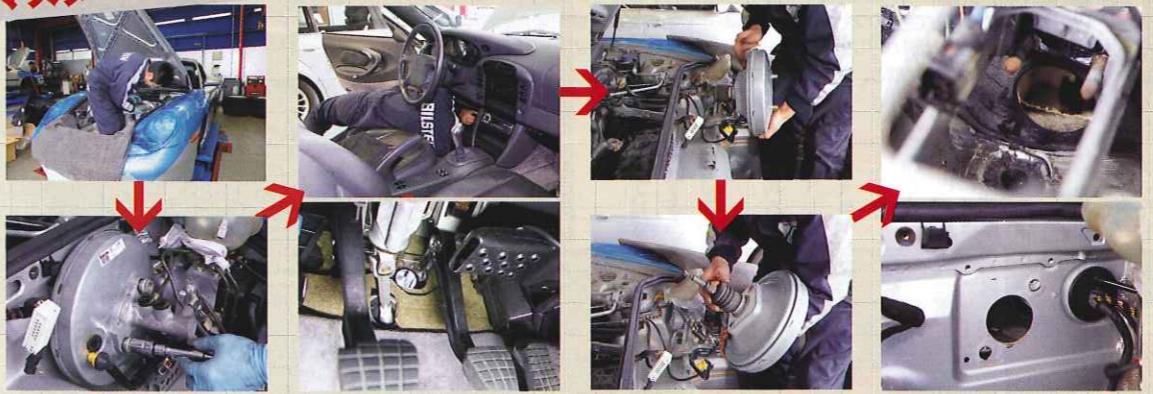
これがサビの原因!?



水抜き穴が塞がっていたら要注意!

マスター バックのかしめを剥がして分解してみたら、ご質のように中から大量の錆が出てきた。皆さんの996も、中身はこんな風になっているかも? この原因は上の写真の部分、つまりトランクルームとコクピットの間に挟まれた部分に侵入した雨が、そのまま抜けずに溜まってしまったため。石野忠良工場長によると、ひどい場合には室内に水が入ることもあるという。

マスター バック取り外し



対策部品に交換するには周囲の部品一式交換がお約束

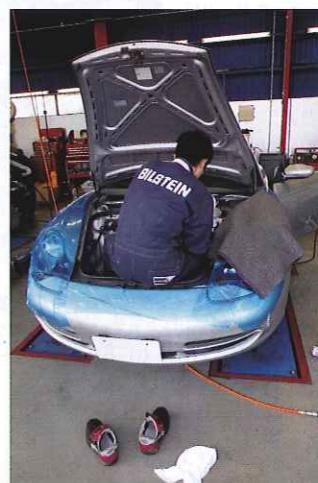
さすがにこのまま見過ごすわけには行かないでのバーツをオーダーしたら、既に対策部品に切り替わっていることが判明した。しかし、その対策部品を使用するためには、ブッシュロッドを始めとして、周囲の部品一式を交換することが必要だった。マスター バック取り外しの作業はフロントフェード側から行なう。まずマスターシリンダーを外し、ABSのユニットも前にずらさないと外れない。ブレーキのブッシュロッドを外すためには、室内側からペダルの所に潜り込んでネジを取り外す。実は今回一番面倒な作業はこれだった。

下のバーツが対策品



上が今回取り外したバーツで、下が新しく入手した対策バーツ。アルミ押し出し材の棒状の部品がペダルとマスターをつなぐブレーキブッシュロッド。下の対策部品ではペローズと接続ビースでこのブッシュロッドの部分を完全にシールドする構造になった。

先月号にも少し書いた通り、この996のブレーキリフレッシュの作業を行なつていただいたところ、私達はどんでもない物を見発見することになつてしまつたところ、中からは上の写真のようないくつかの赤な錆が出てきた。とりあえず現状ではまだ機能的な問題は発生していないなかつたのだが、このまま放置すれば、



対策品のマスター バック取り付け

マスター バックも新品にしたついでにマスターシリンダーも新品にしました

まず最初にボディ側に接続ビースを取り付けてから、ブッシュロッドを差し込んでペダルとネジ止めする。次にマスター バック側にペローズを取りつけ、ブッシュロッドに被せるようにして固定する。元々付いていたバーツは特に水の侵入に対する配慮はなかったが、対策バーツではペローズの両側をクランプで固定することによって水が侵入しないようになっていた。マスター バックを組み付け終わったら、その前面にマスターシリンダーを組み付ける。今回はマスターシリンダーも新品交換した。

ブレーキのエア抜きとバッテリー取り付けで完成

こんな所にもサビが…

今回の作業のために、フロントのラゲッジームを空っぽの状態にしてみたら、マットの下側に一部赤錆が発生している箇所を発見した。恐らく、以前にこの部分にも水が侵入したことがあったことの名残だろう。しかし、このような状態にしたことでも、少なくともフロント周りには事故歴がないということが良く分かった。

これは何らかのトラブルにつながるという保証はない。

このマスター バックという部品は、簡単にいつてしまうと、負圧を利用し、ブレーキの踏力を大きくするための装置だ。これが機能しなくなると、通常よりもかなり大きな踏力でブレーキを踏まないと、十分な制動力を得ることができなくなってしまう。恐らくサボの機能そのものはそう簡単に失われてしまうような状態にはならないはずだが、逆にブレーキの戻りが悪くなつて引きずりを起こしてしまうことはなるかもしれない。いずれにしても、重要な部品のブレーキがこのようになつていていることを知りながら、

そのままでは済ます訳にはゆかない。

ところが色々調べてみると、メーカー自身もこの問題についてある程度情報を掲載していたのでは?と思われる節があった。交換のためのバーツをオーダーしたところ、既に対策バーツと思われる物に切り替わっていたのだ。

この部分のトラブルは、恐らくコクピットとバルクヘッドの間の部分の水抜き穴が詰まってしまったことが原因となつて二次的に発生するものだ。

そこで、この対策部品に交換するために、だしこの対策部品に交換するためには、マスター バック本体はもちろんのこと、ペローズや接続ビース、ブッシュロッドにいたるまで、一式全部交換することが必要になつている。

もし読者の皆さんの中に996のオーナーの方がいらっしゃったら、自分のクマのマスター バック周辺のバーツが、この対策部品になつているかどうか確認することをお薦めしておく。

SHOP info NEWS MOTOR



所在地:千葉市中央区星久喜町189-1
電話番号:043-208-7900
HP: http://www.news-motor.com/
E-MAIL: info@news-motor.com
FAX番号:043-208-7901
営業時間:9:00~19:00
定休日:毎月第2曜日定休日
(月曜祭日の場合は翌曜日定休)

先月に引き続き、今月も輸入車のスペシャルショップ「ニュースモーター」で作業。丁寧な仕事十高い技術力と豊富な専門知識を持った職人の集団だ。こんなお店が自分の家の側にあったなら、と思わせる良心のお店。

GO!!

試乗に出かける石野工場長。やはり腕の立つメカは決して最後の確認作業を疎かにしないものだ。実は以前某輸入車(ポルシェではない)の整備をディーラーに出したら、整備ミスでアクセルが戻らず、事故を起しそうになったことがあった。その後聞いたら、誰も確認の試乗をしていなかった。

ところが、新しく供給されたバーツでは、ペダルでマスター バックを押すためのブッシュロッド全体をペローズで覆つてしまい、この部分に水が溜まつてもマスター バック内に侵入しないような構造に変更されていた。たゞ、この対策部品に交換するためには、マスター バック本体はもちろんのこと、ペローズや接続ビース、ブッシュロッドにいたるまで、一式全部交換することが必要になつている。

もし読者の皆さんの中に996のオーナーの方がいらっしゃったら、自分のクマのマスター バック周辺のバーツが、この対策部品になつているかどうか確認することをお薦めしておく。

